

2013.12.11

「自民党が税制改正大綱を発表」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は12月11日木曜日です。

今朝の自民党税制調査会の総会で、来年度の税制大綱が決まりました。消費税が10%時に軽減税率の導入や、自動車取得税を廃止する等、これから行っていく上で、様々な条件整備を行わなければなりません。しかし、環境性能課税という環境性能に応じた取得時の課税制度を導入することにより、これからますます、環境性能・燃費性能の良い自動車を世界に先駆けて、発信・製造ができるように税制の面からも支えていこうということです。今回の税制大綱は色々な知恵の詰まったものになっています。もう一方で、法人税の減税についてです。これにつきまして、「法人税を減税した方が経済は良くなる。」という方がおられますが、私は懐疑的、否定的に思っています。まず、減税した分が経済の活性化のために使われているか、という所をしっかりと検証しなければなりません。そういった事も税制大綱に書かれています。そこで、本日お話しようと思っていることは、税制大綱も含め、これから安倍内閣2期目に向け、1番にやらなければならないことは、デフレからの脱却ということになりますが、そのデフレからの脱却のためには、何をすべきかをもう一度抑えなければなりません。安倍内閣は発足後2年目を迎えようとしていますが、この間アベノミクスということで、大胆な金融緩和、機動的な財政出動、民間投資を誘

導していくということで、大きな成果を上げてきました。特に円高が是正され、株価も企業業績も良くなってきたということも含め、1.5倍になりましたが、これからが本番です。今、いわゆる金融緩和を行い、かつて約80兆円の日銀当座預金残高を約270兆円まで増やしていくということで、日銀が国債を市場から買い集めています。そうなりますと、各銀行が持っている日銀当座預金残高というのは、200兆円ぐらいになっています。随分、お金が民間金融機関に流れています。しかし、民間金融機関に流れたお金が民間企業に流れ、初めて市場にお金が行き回ると言えますが、残念ながら、このお金は日銀当座預金という所に溜まっています。ただ溜まっているということで、これからあと70兆円余りを、日銀が国債の買い越しを行い、供給していくというメッセージが、これから金融緩和まだまだ進んで行くと言う事で、円安傾向に為替を引っ張っていき、その期待から株価が上がったりしています。しかし、実際にはそのお金が使われなければなりません。そのお金が使われ出しているかと言うと、まだそれが使われていません。これから実際に、そのお金がどうやって、民間の企業や市場に出回っていくことが大事ですが、そこが一番難しい訳です。このお金が出て行かないと、経済は良くなりません。デフレ状況でありますから、相対的にお金の値打ちが上がっていき、お金を借りると返せなくなってしまいます。つまり、デフレと言うのは、物価が下がる事ですから、同じ単価で同じ量売ると、売上が減ると言う意味です。売上が減る状況や、所得が減る状況

で借金の返済は出来ません。要するに、名目の売上や賃金が減る状況では、借金返済が出来ませんから、お金を借りて投資や消費をしようという気分にならない訳です。ですから、民間企業には、デフレの状況が続いている限り、期待が出来ない。今しなければならないことは、公共部門のお金を出すと言う事です。これは政府の支出を増やす、いわゆる国土強靱化も大事ですが、公共事業だけではなく、その他にも政府支出は沢山ありますので、それを出すことによって予算が増え、予算で発注し、民間企業から物を買ったり、人を雇ったりすれば、民間にもお金が流れていきます。民間にお金を回していく仕組みと言うのは、今は民間がデフレでお金を借りない以上、政府支出に頼らざるを得ないと言う事です。そして、税制大綱を発表しましたが、来年度予算でしっかりとした予算付けをして政府の支出を増やしていく事が一番大事だと言う事だと思えます。

こう言う事を踏まえて先日、参事院の自民党の決議として、政府に要望致しております。しっかりと景気対策をするために、予算の規模を大きくしなければなりません。また、継続的に公共事業等の計画を立てないと、実際に予算を立てても、それをこなせるだけの人を民間企業が雇ってくれていないと、消化が出来ないと言う現実がありますので、そう言う事も含めて、長期的な公共事業整備の計画をしっかりと示していくべきだと、政府に対して要望している訳であります。

来年度の安倍内閣の一番の正念場となる、デフレ対策をしっかり成功させるためにも、こうした事をしっかり訴えていかなければならないと考えています。

とりあえず大きな山を一つ越えたと言う事で、ご報告をさせていただきました。

本日も御覧頂きありがとうございました。